



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙つて

一昨年の新学期、フレデリックは聴力を失い、白内障も悪化して、よたよたと歩く老犬になっていた。名古屋の猛暑を耐えられるか？ 不安は的中、六月四日に十四回目の誕生日を迎えた数日後、眠ったまま死んだ。

フレデリック追想

森 郁恵

フレデリックは、シェルトイーの愛称を持つシェットランドシープドッグ。犬種名の通り、もともとスコットランド北部にあるシェットランド島の牧羊犬だった。その容姿はコリー犬の小型版だ。牧羊犬の遺伝子がさせるのか、非常に賢く忠誠心も強かった。散歩がてら、近所に買い物に出て「ここ待つように」というと、すぐに理解しその場に座り、じっと私を待っている。犬好きの人に頭をなでられて

も、動かない。

「グッドドッグ」とそばに寄ると、口角を上げて、うれしさを表した。自宅で仕事中に席を外すと、椅子に座ってデスクの書類やコンピューターの画面を見ていた。犬は飼い主をまねると実感した。

夜通し大学で仕事をするとき、モーツアルトのピアノ曲「ロンド イ短調」をよく聴いている。フレデリックが死んだ後、この曲は特別なものとなった。物悲しく美しい短調の旋律は、出張する私を寂しげに見つめる目。力強くも繊細な長調の旋律は、はしゃいでみせる姿。曲調の変化とともに、フレデリックがよみがえる。喪失感は耐えがたいが、生きることには死に近づくことでもある。人間も犬も自然の摂理には逆らえない。

(名古屋大学教授)

2011.1.28